



2020年10月30日

各位

会社名 株式会社フリークアウト・ホールディングス
代表者名 代表取締役社長 Global CEO 本田 謙
(コード番号：6094 東証マザーズ)
問合せ先 取締役 C F O 永井 秀輔
(TEL. 03-6721-1740)

連結子会社における「2020年9月期連結業績予想および個別業績予想の修正に関するお知らせ」のお知らせ

当社の連結子会社である株式会社インティメート・マージャーにおきまして、添付のとおり「2020年9月期連結業績予想および個別業績予想の修正に関するお知らせ」を公表いたしましたのでお知らせいたします。

株式会社インティメート・マージャーの概要や当社の連結業績に与える影響については下記の通りです。

記

1. 株式会社インティメート・マージャーの概要

(1) 名称	株式会社インティメート・マージャー
(2) 所在地	東京都港区六本木三丁目5番27号
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役 築島 亮次
(4) 事業内容	DMP (データマネジメントプラットフォーム) 事業
(5) 資本金	424 百万円

※2020年6月30日時点の情報を記載しております。

2. 連結業績に与える影響

本件の当社連結業績に与える影響につきましては、現時点では業績に影響を与える未確定要素が多いため、今後業績予想の修正が必要となった場合には、速やかにお知らせいたします。

以上



2020年10月30日

各位

会社名 株式会社インティメート・マージャー
代表者名 代表取締役 築島 亮次
(コード番号：7072 東証マザーズ)
問合せ先 取締役 久田 康平
(電話番号：03-5114-6051)

2020年9月期連結業績予想および個別業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2020年5月15日に公表いたしました2020年9月期通期（2019年10月1日～2020年9月30日）の連結業績予想および個別業績予想（以下、「前回予想」といいます。）を、下記の通りに修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2020年9月期 通期連結業績予想の修正

(単位：百万円)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 連結当期純利益
前回発表予想 (A)	1,969	3	△23	△24	円 銭 △8.82
今回修正予想 (B)	2,042	57	36	20	7.13
増減額 (B-A)	72	54	60	44	15.95
増減率 (%)	3.7	-	-	-	-
(ご参考) 前期実績 (2019年9月期)	2,188	146	142	96	40.18

(注)「1株当たり連結当期純利益」の算定上の基礎となる期中平均株式数については、2020年9月30日現在の発行済株式数を使用しております。

2. 2020年9月期 通期個別業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	1,968	2	△1	△2	円 銭 △0.89
今回修正予想 (B)	2,042	57	52	36	12.91
増減額 (B-A)	73	54	54	38	13.8
増減率 (%)	3.7	-	-	-	-
(ご参考) 前期実績 (2019年9月期)	2,188	146	142	96	40.18

(注)「1株当たり当期純利益」の算定上の基礎となる期中平均株式数については、2020年9月30日現在の発行済株式数を使用しております。

3. 業績予想修正の理由

(1) 通期個別業績予想修正の理由

当社は、2020年5月15日に公表いたしました2020年9月期の通期業績予想について、新型コロナウイルス感染症の拡大による特定業種における広告予算大幅減少の影響が少なくとも2020年9月末までは継続するものと想定しておりました。

しかしながら、2020年6月の緊急事態宣言解除後は、国内広告配信事業において旅行業等一部のクライアントにおいて影響は残りつつも、イベント業やエンターテインメント業等の営業再開をしているクライアントからの受注は回復し、マーケティング支援売上における第4四半期の顧客数は前回予想比7.9%増加と若干の持ち直しを見せる結果となりました。また、外出自粛要請やテレワークの浸透による、テレワーク環境を整えるためのサービスプロモーションのニーズも追い風となりました。成果報酬型ディスプレイ広告運用サービス「Performance DMP」については、マーケティング予算削減ニーズの高まりを受け、成果課金型のアフィリエイト広告が見直されている環境下で、アカウント数が前回予想比102.7%と順調に伸長しております。この結果、マーケティング支援とPerformanceDMPを合わせた国内広告配信事業の売上については、前回予想比104.2%となりました。

データマネジメント・アナリティクス売上については、アカウント数は若干減少したものの、概ね前回予想通りの売上高となりました。

Select DMPについては、ターゲット企業のみリスト提供に加えて、他社ツールと連携を行いターゲットとなる見込み顧客とのコミュニケーションまで一貫したサービスの提供を強化したことで、単価が前回予想と比較して増加し、前回予想を上回る売上となりました。

これらの結果、今回修正予想における売上高につきましては、前回予想に対して72百万円増加し2,042百万円(前回予想比3.7%増)となることを見込んでおります。

費用面に関しましては、当社においてもリモートワークを継続的に導入したことにより、交通費や会議費等を中心に販売促進費が減少し、営業利益、経常利益及び当期純利益につきましても前回予想と乖離する見込みとなりました。

(2) 通期連結業績予想の修正理由

通期連結業績予想については、前述の個別業績予想の修正理由に加え、持分法適用会社の Priv Tech 株式会社において見込んでいた、新商品リリースに合わせた開発費用や広告宣伝費用が一部後ろ倒しになったことで、持分法投資損失も前回予想比 26.1%減少することとなりました。これらの結果、連結営業利益、連結経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきましても前回予想を上回る見込みです。

(注)本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上